

主な内容

- 3 キラリ天草人
- 4 毎日の移動をもっと自由に！
AIオンデマンド乗合タクシー
- 8 本渡地区清掃センターで爆発事故が発生
- 9 消費者トラブルでお困りのこと、相談してみませんか？
- 10 いきいき健康
- 11 暮らしの情報
- 23 図書館へ行こう！
- 24 元気☆あまくさっこ／〇〇な人み〜つけた！
- 25 ハッピーバースデー
- 26 宝島のわだい
- 28 地域おこし協力隊／天草見どころ図鑑
- 29 市民のひろば
- 30 休日在宅病(医)院／献血日程
水道指定工事店
- 31 お出かけ情報
- 32 ワンコインで映画を楽しもう！
市民シアター
あまくさ縁結び 結ぶらす

天草市公式 SNS

▷ LINE
▷ Facebook
▷ Instagram
▷ YouTube



SNS 一覧

広報紙（やさしい日本語版）

外国人をはじめ、
障がい者や高齢者、
子どもにも分かり
やすい日本語でま
とめた概要版



ホームページ

問い合わせ先

本 庁	天草市役所 ☎23-1111 〒863-8631 天草市東浜町 8 番 1 号
支 所	牛 深☎73-2111・有 明☎53-1111 御所浦☎67-2111・倉 岳☎64-3111 栖 本☎66-3111・新 和☎46-2111 五 和☎32-1111・天 草☎42-1111 河 浦☎76-1111

市長コラム

Mayor's
Column



市民ふれあい座談会に
参加してみませんか

今年も 7 月から、市内各地で「市民ふれあい座談会」を開催しています。7 月は、倉岳地区を皮切りに、御所浦、五和、栖本、本渡の 5 カ所にお伺いします。その他の地区についても、10 月に開催予定です。

座談会では、まず私から市政の状況などを説明し、皆さんの暮らしに身近なテーマについてお話しします。その後は、皆さんからのご質問やご意見を直接お聞きして回答する対話の時間です。

この座談会は、市政をより深く知っていただくと同時に、「自分たちの地域のために何ができるか」を皆さんと一緒に考えるきっかけにしたいと考えています。今回は特に、人口問題、ごみの減量、防災、そして関係人口や空き家対策といった、天草の未来に直結する重要なお話をさせていただきます。

ご自身や家族、そして地域での“安全・安心で幸せな暮らし”を守るために。ぜひ会場へ足を運び、皆さんの声をお聞かせください。



これまでのコラムは市ホームページ内「市長室」に掲載しています▲

人のうごき

6月末現在

6月中の異動	※（ ）内は前月比
人 口 69,442 人（78 減）	出生 29 人
男 32,998 人（34 減）	死亡 106 人
女 36,444 人（44 減）	転入 109 人
世帯数 35,636 （16 減）	転出 110 人

今月の表紙

市内の海水浴場が一斉に海開き。天草町の白鶴浜海水浴場では、海の安全を祈願する神事が行われた後、親子連れや学生などがSUP体験や水遊びなどを楽しみました。

併設するサンセット カフェでは、海開きにあわせマルシェを開催。市内外から多くの人々が訪れにぎわいました。

関連記事を市ホームページトップに掲載。



誰もが笑顔で集う場所
「ああ、ここね！」



森枝 秀幹さん・正恵さん
（御所浦町牧島）

玄関を開けると、焼きたてパンの香ばしい香りが優しく包み込む。御所浦町で唯一のカフェ「島カフェここね」を営むのは、森枝秀幹さんと正恵さん夫婦だ。秀幹さんは地区振興会長、正恵さんは主任児童委員としても、日々地域のために奔走している。

元々パンやお菓子作りが大好きだった正恵さん。保育士として働く傍ら、休日には知人と共にパン作りの教室に通い始めた。当時は、練習で焼いたパンを地域の高齢者や子どもたちに振る舞うなどしながら腕を磨いたという。地域のバザーに出店した際には、材料費を除いた売り上げを寄附するなど、地域のためにも活動してきた。

カフェの建物は、元々住居として使っていたが、介護のために空き家となってしまったもの。当初は認知症カフェ（オレンジカフェ）として活用していたが、利用者からの「誰でも立ち寄れる場所にしてほしい」という声に背中を押され、4年前にオープンした。店名の「ここね」には、「ああ、ここ

ね！」と親しみを込めて呼んでもらえるようにとの願いが込められている。「今、ここねにいるよ！」というお客さんの電話口の一言に、名前が地域に溶け込んでいる喜びを感じると 2 人は微笑む。

リビングを改装した店内は、暖色の照明やテラス席、子ども用遊具を備えた、飾らない居心地の良さが魅力。提供するのには、素材にこだわった安心・安全なパンやケーキ、そして「万人受けする飲みやすさ」を追求したこだわりのコーヒーなど。予約制のランチも人気だ。

「お客さんのおしゃべりが一番の楽しみ」と話す 2 人。毎日歩いてパンを買いに来る常連客もおり、今やここねは、地域に欠かせない憩いの場となっている。

- 1 目にも鮮やかな新緑色のソースがパスタに絡んだ手作りのジェノバゼ。正恵さんの一押しメニューは、バスクチーズケーキ。
- 2 元のリビングを活かしながら落ち着く雰囲気。何時間も滞在される人もいます。

